

13 遠  
2209  
89

繪本豐臣勲功記九編卷之七

目錄

龍虎英雄千代川原決戰

附薩軍深待

殿下神計使光佐穿薩州

附解道場房

目録

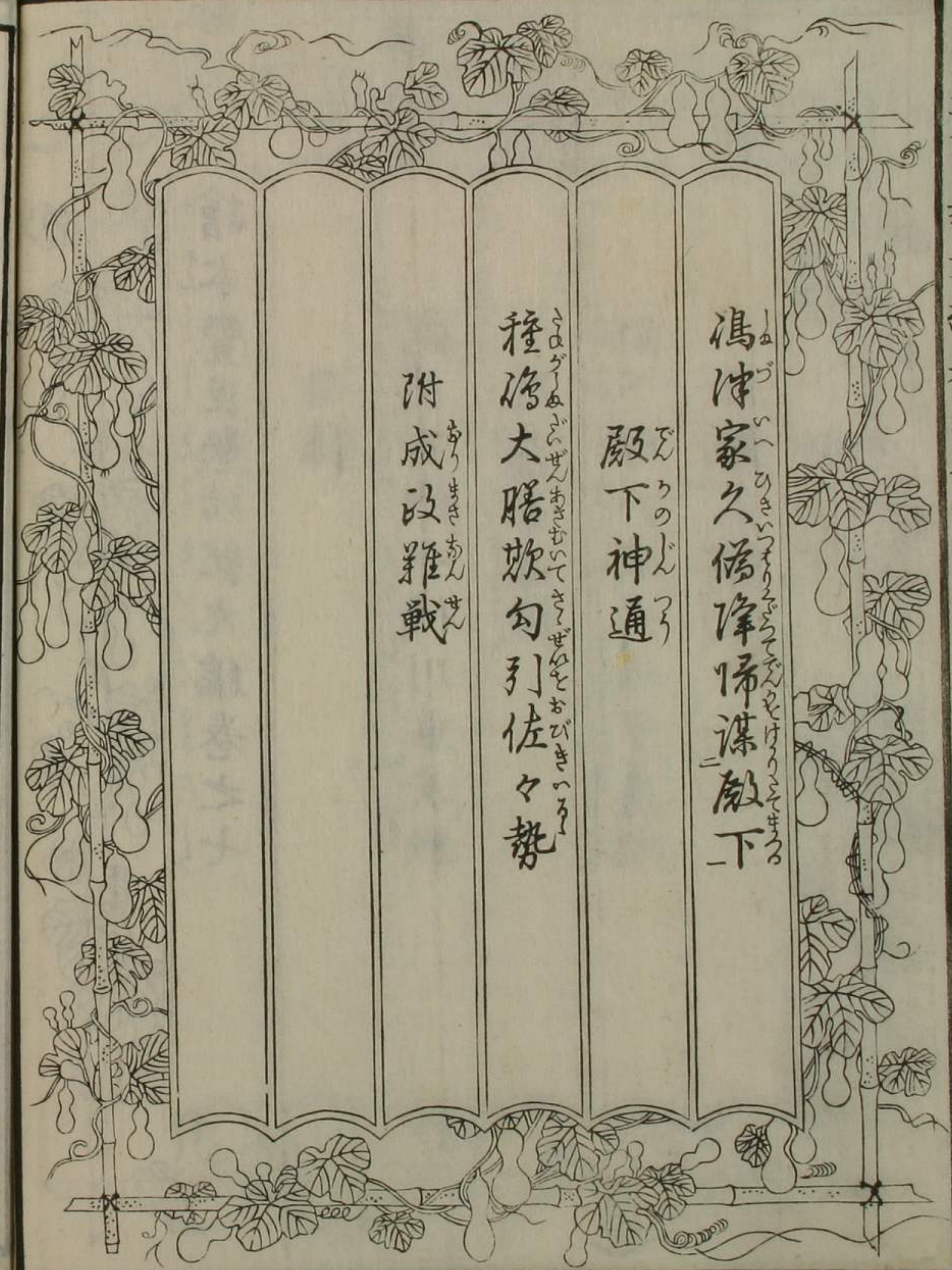
目録

馮冲家久倍降降謀敵下

殿下神通

種清大膳欺勾引佐々勢

附成政雜戰



繪本豊臣勳切記九編卷之七

櫻澤堂山 剛補

龍虎英雄千代川原決戦

属 薩軍謀待

神將怒は西風轉して南に向ひ傑士叫べば激水忽逆

ふ流るる英雄の氣烈き時ハ浩りりるもやあらん

若い子代川の原上小巻軍云候の加後福崎薩陣不敵の

新納種清こそ小程威の底と極めて奮激突戦さるもの

と流水もいぬや流止あんむりあり儲も式持守忠元

ハ勇不まりせて福崎が隊候と滅多小赤悩まし微塵小

せんと菟立ちりふぞ福崎の隊の勇卒もこの程皆ふあ

くりがさく右儀左倒れ乱るると正別大不激懐ふしき



豊臣記九編卷之七

となき自方の戦風う赤唇隊中不徳病未練の軍あつた。  
 敵の双ふりけんより。さかふ不屠り得させんむ一足と  
 りと退込せば活きまじきぞ覚知して死すべきいのち  
 は進んで死ね菟とくと喉をわ声ハ霹靂不突あつむ。  
 烈然として突立接立ふとつひ種徳の軍勢を退治さん  
 とあしりらと新納が新を去きり不進んで福徳勢と接  
 損ふ又段古段不接切つり。原來の貨火のおとき短碎偏  
 急の正剣あはば新納が勢不接立らば隊伍の志どろ不  
 乱とつらと接ること最も烈しく齒と切り拳と握り凜  
 奴があらまひ人もあげあり。戦ひむるこそ奇怪あは。い  
 り不勇猛あはいと何れどのるうあつん。さきとつら

ら立向ひ一騎赤の勝負とせん。後と打つて馬と踊ら  
 せ。十反わりり近出しが武彦守と見ると等しく。聴はる  
 發發逆立あがり。新納と目的て突菟る時不新納ハ一端  
 福徳が勢とくづして再び隊伍と立整。伊集院が放北  
 と救ひ得させんとたもひりりゆえ。加藤が勢へ菟らん  
 とめ。使えと北へ向らるゆえ種徳大搭が彼方よりあは  
 と奔る時ハ新納が放軍とおもひ。語り。夫をや福徳とあ  
 落さむやと臂不掛つる不練の小筒と馬上あから不某  
 と強ふ。隻ふらち不切てをあてハ正剣あをや响不  
 手細くり。込馬と退下玉と遊んとあしりら。古今  
 双の終練と得らる。種徳のあつる考統をこし。観ハ遠へ



種ヶ島大膳の  
 修鍊  
 福寫正則と  
 落馬せしむ

皇一巨己七編卷之七



皇一巨己七編卷之七

ども福清が騎ぐる馬の耳下不炳とある。赤色で馬の  
 此も堪えむ。苦痛不忍むて改まり。遂に主とそ落しん。  
 佐名備ハ心持き危や至人の為流不當り。ぞと走掛て  
 引抱え。後陣と當りて退きり。且ハ清津勢ハ遠蹶躍怒し。  
 凱歌作て。殘名と跑散さんと接起り。且ども主不奔らぬ  
 可児桂破ら。且まどと踏止まり。追つ返しつ。戦ふより。此  
 在相と加茂清正堤の上より。顔て呼福清と破ら。走る。あ  
 救えや。葛とと下知志つ。も葛地不強き。より。新納忠元  
 が服依不舎釈も。なく突蕨る。種清も。これとて。隊依と  
 希後二不分ち。半ともつて。清正が。後依え不攻。葛ら。せ。加  
 及が。矢と左右より。推投。綱でう。とんと。さる。清正。お。且。不

まこーも怯ま。右當左當。不烈戦。ま。さて。ま。福清。正。創  
 へ。おも。た。む。後。者。不。引。立。ら。は。退。き。り。の。と。無。念。不。おも。ひ。  
 後。突。軍。と。さん。く。不。呵。付。ふ。く。ひ。馬。と。騎。換。て。大。喝。百  
 声。發。呼。び。不。近。来。り。單。騎。急。不。突。入。り。と。ば。その。を。と。め。よ  
 り。戦。ひ。在。り。福。清。黨。の。勇。士。軍。勇。を。ま。ま。く。壯。不。  
 て。威。烈。く。斬。立。り。の。ゆ。え。遂。不。新。納。と。種。清。の。中。と。寇。あ  
 く。断。切。て。種。清。と。當。の。款。と。腕。ハ。棟。物。の。つ。ぐ。り。ん。ど。け。  
 骸。ハ。命。の。あ。く。ん。り。ぎ。り。一。旦。去。ら。む。戦。え。ハ。加。茂。ハ。新。納  
 不。操。合。今。日。と。り。ぎ。り。と。死。生。も。知。く。む。撃。つ。毆。む。つ。挑。ま  
 合。あ。の。日。ハ。不。月。の。三。日。不。して。最。日。長。き。頃。と。い。え。ど  
 も。今。朝。よ。り。致。度。の。戦。不。を。や。日。も。夕。陽。こ。ろ。不。あ。ぬ。且。ハ。

加茂清正心中不助のおとく食付合てい。いつ果べふと  
 もおもをを定めて夜軍ともあんなべ。然るときん  
 ば自方の案内知らざる地ふして。自國の款と我を奇  
 計とあさんも量りぐさ。方便をもつて此軍を止めん  
 不の如くとたもひ陰を横と一馬騎出。澄踏張鞍重不  
 突立扱。碓氷の勇士と名不。新納我守のいつ  
 く不ありや。是の名家先陣の一將加茂。計誤清正が。  
 見余をべふ存むるあり。目もたや暮不向とまら不益も  
 なき乱軍不徒。士卒と勞せんより。汝と我と飽合せ。  
 一時不勝負と決まべき不。憶せむん。快出よと大音声  
 不呼をり。然なきご不も勇氣溢る。武藏守今齒の

款不助。菟らま如何でり。其も於後。べき疎。揮げ馬と飽  
 出。優。き款の望。あ上。官生長の弱。我者不。殊。勝不  
 母。あ。所。存。あり。不。望。不。ま。う。せ。て。薩。戸。船。師。が。備。え。し。梅  
 の。疎。味。を。食。ふ。て。あ。よ。と。奢。ち。し。て。立。向。ひ。只。一。お。と。振。揚  
 つ。も。疎。ま。ま。不。ま。ま。微。塵。不。ま。ま。と。風。を。発。して。お。菟。る  
 と。清。正。さ。ら。さ。ば。檢。潜。り。突。出。を。陰。に。怒。龍。の。如。く。電。り。と  
 見。る。狭。先。と。避。て。雷。不。も。務。る。棒。の。勢。ひ。柳。を。ば。敗。去。突。バ  
 拂。ひ。梅。の。疎。の。術。を。尋。せ。ば。陰。法。の。秘。と。究。め。魏。く。凍。く  
 と。挑。ま。ず。年。不。清。正。忠。え。の。横。相。の。朱。と。も。て。描。り。の。鐘。槌。の  
 お。と。く。騎。つ。り。の。水。と。も。あ。ま。ま。て。雲。不。近。づく。壙。龍。不。似  
 たり。さ。て。不。不。十。余。合。不。お。よ。べ。ど。勝。放。り。つ。て。決。し。得。を。

こゝに至て武蔵守心中密にこそを踏き吾小對して  
 十余合挑すんものハよも日本にこそあるまじとおも  
 ひし此者いりある勇猛まじハ斯致ふといふといえ  
 ども女志も弱る氣色なく陰の法も私をさるハ実小  
 び不奇代の勇士ありと感佩することあぬとてび清正  
 も名新納が武勇と心の中不称羨ふ。程も勝負を決せ  
 んと因合出沒前當後遊面ハ弱らむ目ハ瞬らむ風と起  
 し火とをふち正思ふあつて戦ひらるが新納一層の勇  
 氣と烈まし此者いり小妙術ありとも吾此棒ハ及ぶ  
 まじと隙と得がひ棒揮卷つも力不任せて横相ふうち  
 作さんと陽叫と掛勢ひ込ておくりらるが餘り不強く

激怒りら小や馬も口足と立ちねて前足合踏と折らる  
 小ぞ武蔵守ハ大標ふして重き體と被らるのそり百八  
 斤の九練しる。凍材棒と提げさるハ跳下ること能て  
 走りて馬落共小作らる小ぞ清正ハ倣てやつたりと  
 陰取舒てまて小突止んとふりらるが斯むりりの勇將  
 と。吾下小殺さんも本意小あむと陰と控て声と正し。  
 吾素無法の勝を好まむ。かるがゆえ小今汝小鬼と志  
 めん愧と赦さん馬騎換てふとてひ來るといひつ其  
 場と退きりまハ新納ハ爰見し意地して清正ハ後と志  
 むしハ我守り了得小程き武蔵守も吾とをまて落後  
 不し清正ハ我小感服して自方の陣へ退きり。袖崎も



怒る懐然として死せりへりまを攻居りりゆえ種崎も  
 朽慥なき河辺小陣に引退く松浦大村秋月筑紫も勢  
 ひ迫て戦ふ小川上停勢併と食止りるが其日も己小  
 暮果りま加茂清正使士と走て我軍へ利あるまじと  
 制せらるる小正刻も是非なく加茂と徳共小正勢と纏  
 りて退く所へ下よりも退軍をべいと命を下し五ふ  
 小より九段勢も皆ひとしく諸勢を収めて清本陣小系  
 候よりま秀吉公小清正刻と昭せらま大正清  
 兵ま一くりま西將へありがごとく面目と施して吾  
 陣小こそ返りりま信玄清陣の法軍勢へ今日終朝の戦  
 小敵とも多く敵といえども自方の史率とあぬと損ひ

故軍といふもあはねど日暮進退宜しうなれば史  
 率とあせぬ用意して退返さるるその中も新納へ加  
 茂が我救と義面目なげ小軍と納め我退勢もあはん  
 と後夜の伎と固ふ一を海小軍と立て各率の勇とこ  
 づり小休め敵の遠蹊と窺ふ小退べき相もあはざまは  
 此等小河と推後り豫計と調ふべいと河下の渡湍より  
 次第くは推後その扱のうち小三里退き京泊の一里此  
 方小陣と取り今日合戦の始終と義弘の本陣へ注伸ま  
 小の各庫頭義弘ハ鹿兎崎の城と三里出馬一赤碓の  
 濱小陣と取り千代川の合戦いりま小やと自方の安否  
 とまつとあはへ又月三日の夜中おる今日合戦の次

豊田言九録卷之五

六

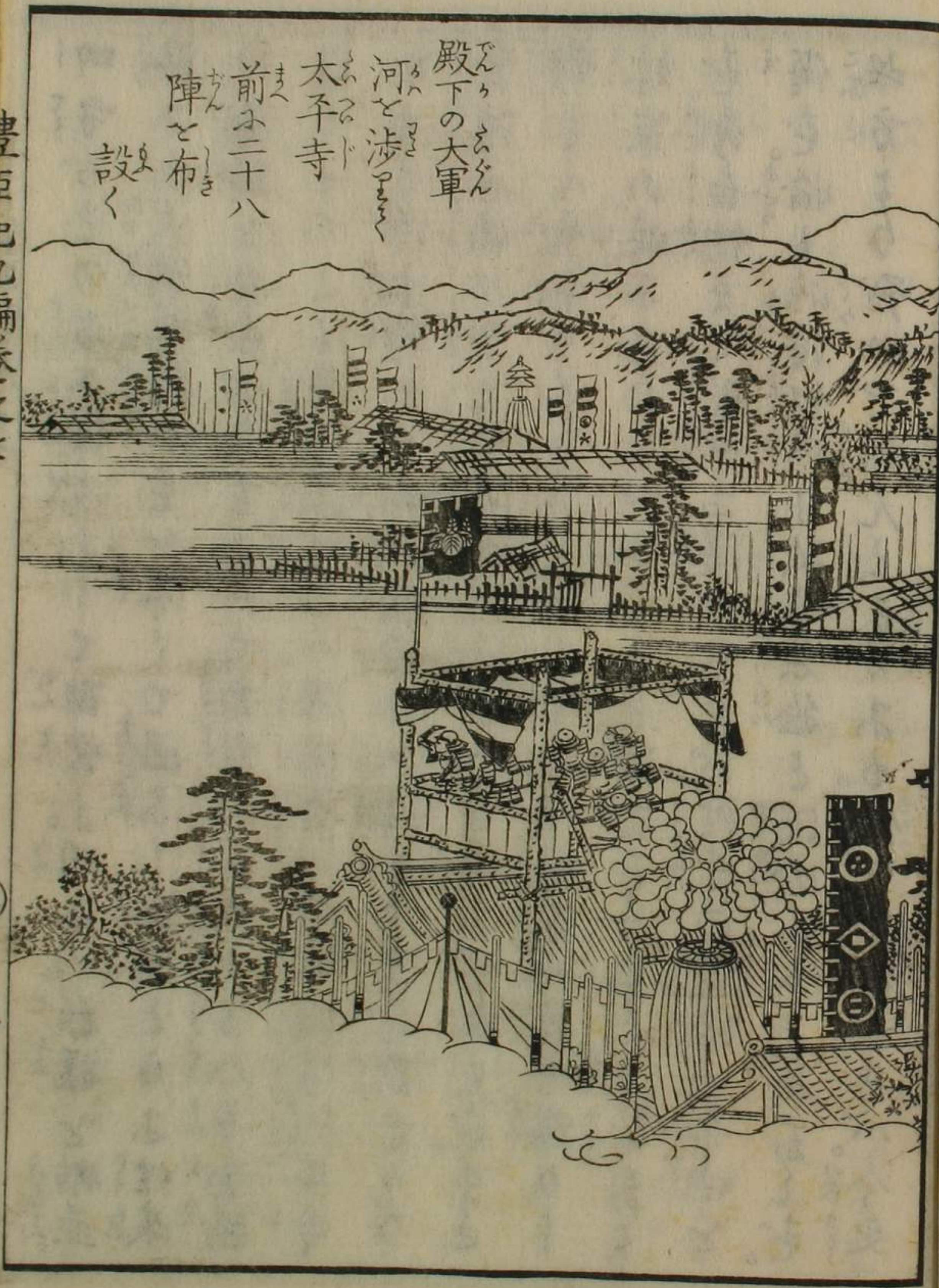
ともて臣伸ちんしん不道ふたうびらまは。我弘わがひろこまを所きこしり。此上このうえの  
 凡時えいじもたやく業うぬて役やくりし計議けいぎとりつて上方かみかた勢せうと破やぶる  
 べしとて。聖日せいじつ直地ちかぢに新納しんなんが方かたへ保計たうけいお國くにの次つぎまで  
 子細しさいみこまを告知つげし。万端ばんたんお遠とほあまざらう。量たからふ  
 べしと下知かみちとふ。我弘わがひろ徳智とくちの分ぶんとふ。奇謀きぼうとらま  
 えてお侍さむらいりり。开ひらかすの計議けいぎと子細しさいみこまを代川ちよがわの口くち  
 里り以南いなん京泊きやうはくといふ津つのありり。麻あ里りこまより  
 鹿兒かご崎さきへいり。まての其中そのうち男おとこに前後ぜんごハ通路つうろ細こまふして。  
 中あちに廣ひろき荒原あらいげんあり。此地このちの左右さゆうに焼州やきしゅうと後ごこまに雄黃じゆうかう  
 燭えん燭しやくと院いん楓ふう先陣せんじんの者ものとして上方かみかた勢せうと戦いくさをいり。自みづか方かたに  
 ざと放はなちせしめて敵たかと欺あそひて布ぬそき路ちより潤うるき荒原あらいげん

へ勾かぎ引ひ入い此こに志しをく挑ひこ。余あの故こ北きたして選まりて。選まりて  
 敵たか名なあり。志しを勝かちふ。乘のりて柴しばを積つむ。所ところを来きらん。その時とき  
 前後ぜんごの路ちを塞ふさぎ。暗号あんごうとふ。さ。四面しめんより抛なげ。炬たき火ひを積つむ。  
 釜かまとる。宋そう燒やき州しゅうに火ひを發はち。上方かみかた勢せうと廻まわり。不ふせん。と。鉄てつ謀ぼうを。  
 信しん念ねん後ご路ろに積つむ。敵たかハ定さだて。先さきの疑ぎ危きに。不ふ驚おどき。狼ろう狽さい也や。  
 る。その所ところと自みづか方かたの名な士しと。撰えらび。出でる。采さい乃のと推おして。彼等あつらと  
 悉しつく。殺ころす。其その威いに。乘のりて。秀ひで吉きちの旗はた本もとまでも。追おう。敵たかを  
 べしと。獲とり。り。り。お。そ。奇き母ぼま。ま。ま。  
 殿下てんか神計しんけい使し克く佐さ穿せん薩さつ。属しゆ解かい送そう場ばう房ぼう。  
 謀ぼうを。バ。獲とき。虎ことも。擒とらえ。奇きく。龍りゆうとも。屠ある。不ふあ。ん。う。く。の  
 お。と。き。秘ひ計けいと。り。つ。て。残のこり。なく。用もちふ。ま。ま。一。將しょうの。の。く。

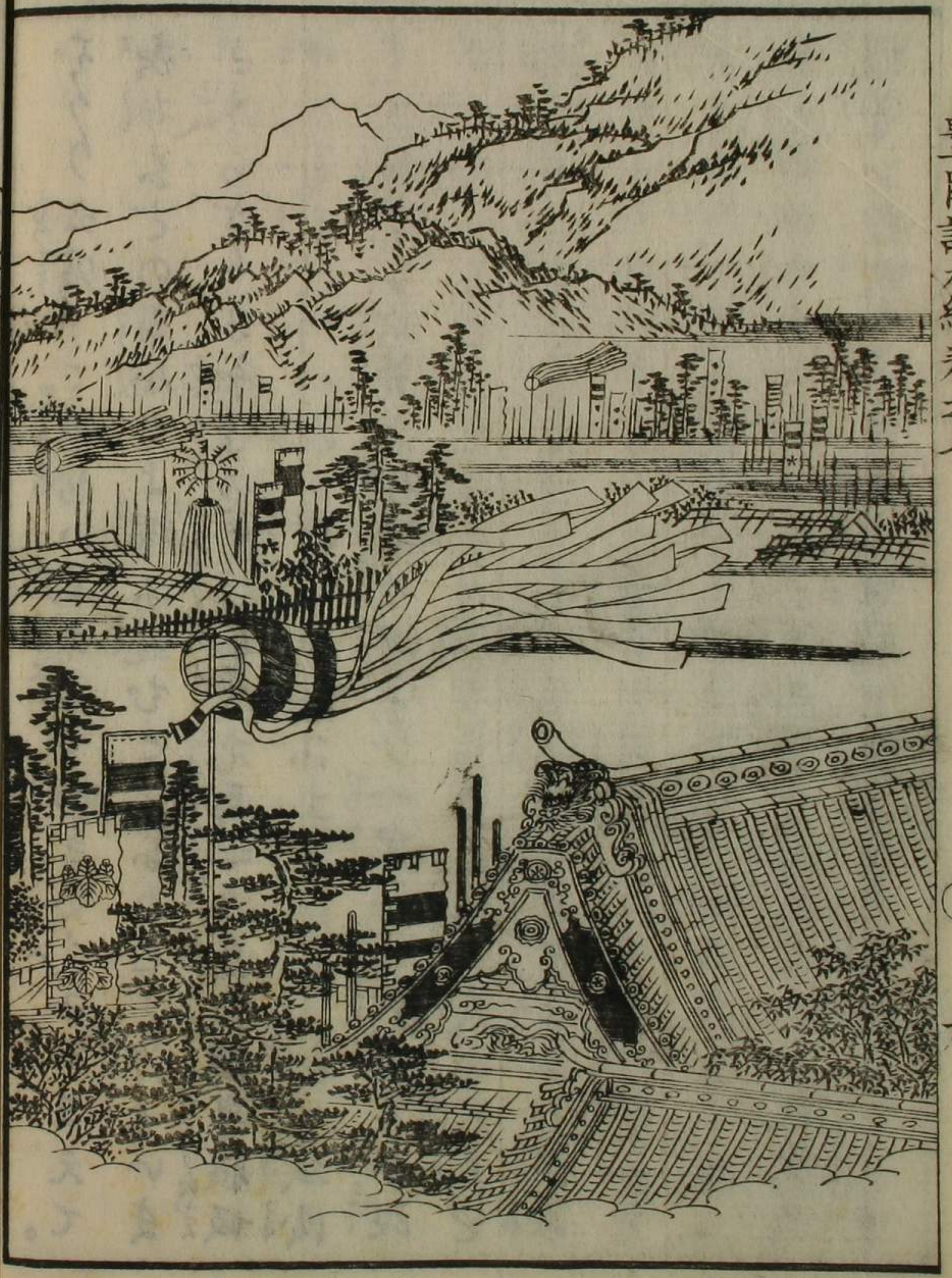
東國言部

熱依して面相へ時津の佐将鹿兒崎或はもちくの要  
害殺所不務るべき。その部不披露不し京泊不ハ種時大  
膳不三介の告とあさえて残し其余の告ハと不退て。  
大守より下知やうさし殺所くく不埋伏不し。晴國次第  
不亦出んと。敵の進るを待蒐り。さるちど不参下秀  
右公ハ。その夜ハ明務軍と休足不さし。聖日早朝不務  
将と召集令と下して室ふらう。敵名略取退去せし。りハ。  
自言の勢勢残りなく。河と渡して陣取べし。もつとも騎  
馬不て渡し不バ。疑りらべきおとあるるべし。是ど近刻  
船不の佐将率此地不到急をべし。是ハ危き計量ハ無用  
とるべし。船とめてよく扱よ先陣川と渡し不バ。二三里

むりり出張して陣營ハ芝土堤と築き丈夫不りまえて。  
夜亦あどの用心せよ。隈不進むこと不る。是と作もいま  
ど終らざる不船不の勇将加茂九馬助。九鬼大隅守。服坂  
中務等。子代川へ船と捲入直地不おちひあら。船と扱後  
し。先陣より次第不推渡り。河より一里不ど仍々不。此  
不大沼あるともて。佐来の障りありと。数百人の人丈と  
踏立州と扱。込柴と埋め。大木大石と並扱。其上不ハ泥汝  
と布らせ。垣地と不し。て諸軍と通し。それより一里余と  
進ませ。阿久根不惣勢と止めさせ。以下知のおとく。嚴不  
芝土堤。柵木木戸。逆茂木。三重不重不。結搦不させ。旌旗馬  
纏等と擡列せし。め。大不軍威と輝し。京泊の濡まで。三里



殿下の大軍  
河を渉  
太子寺  
前二十八  
陣と布  
設く





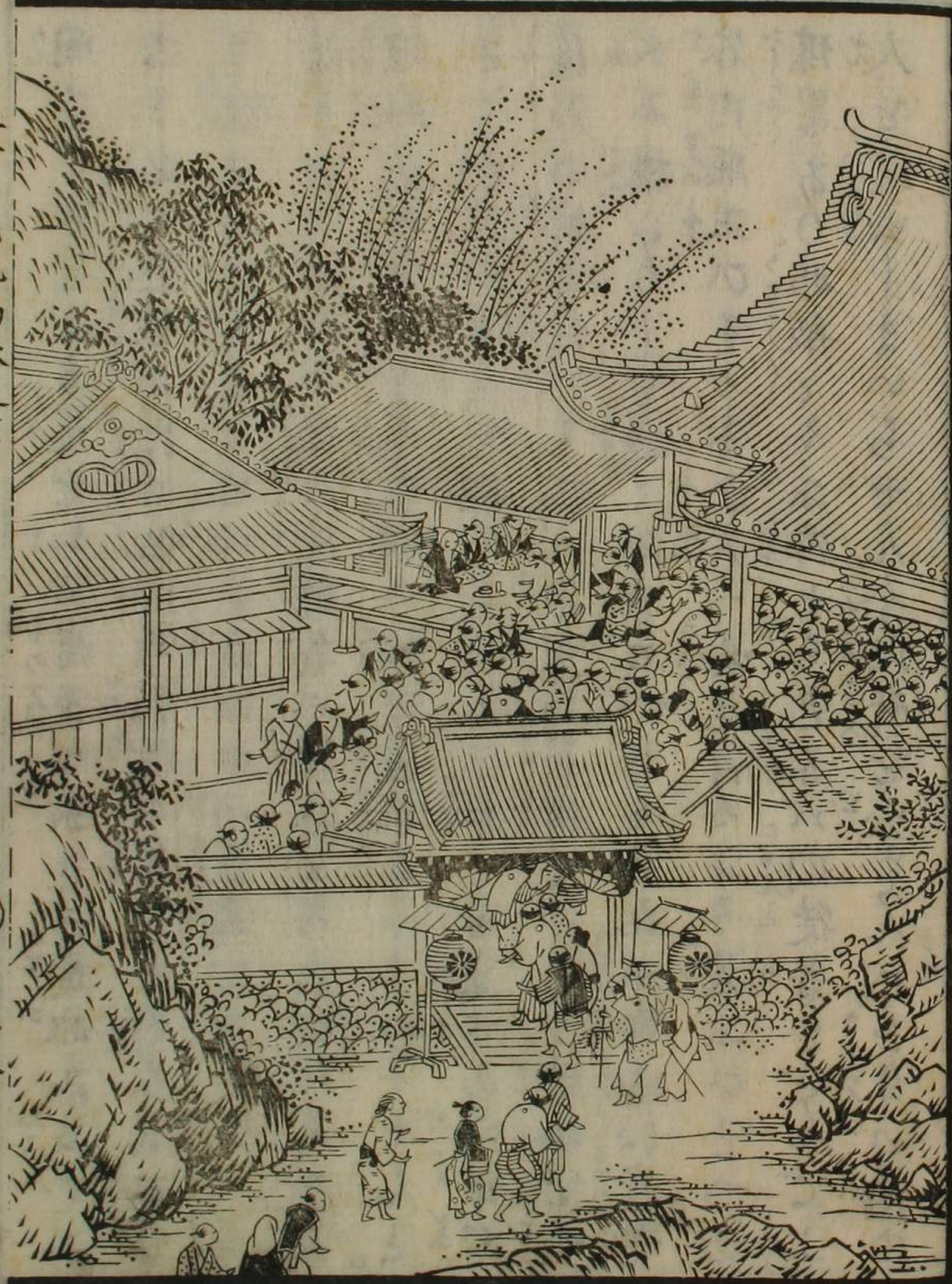
知らざる大國別て枝葉の深まればいろある珠子の出  
 来らんも量りごとく卒忽下向し。も一征果をるるも  
 あらで徒に教月と経るふおいてハ東國いまど治まら  
 ざるゆえな心謀叛の軍も出来らんりと彼是清心と号  
 させとぬひ種く工支ましくりらぐ天性値足志とぬ  
 える。涌が如き武略文韜孫伝子房も倚下小服し得玉ふ  
 量の名君ふとハ遠海の奇策と坦らし玉ひ本願ちの光  
 佐上人とハ枯あつて密計と謀合させ平野遠に守長恭  
 糟谷内膳正武判その外の勇士數十軍とお副ら上人  
 の家老用人若堂小弁拾せ去年十一月の初旬薩戸の國  
 へ下させ玉ふ。こども因て先佐上人薩戸及獅子崎ある道

場房が許へ下居せとぬひりまハ戦國の中とハのひと  
 も。太守我久父子師資の好ありつるもゆえ道場房へ使  
 者とをえ一程く資禮等と増らと町崎小餐をせらる彼  
 國も一向門徒多うりらとハ上人の清下向と勧諭を  
 るまと限りなく。心とそして馳走しまいらま最も此帝  
 九列ふハ率礼志むくふりといえども對馬方ふハ合  
 戦なきゆえ薩戸の中ハ靜謐あり。こども因て先佐上人  
 懇小清法疾あり。門徒と化益志とぬひら。其際と何ハ  
 怯奉ふせ。平野糟谷の教十軍上人の以用ふる寄せ此  
 所彼不細細して預め地理案内と尋探り。あるハハ崎  
 津家の族士ふ近き親合て内外のふ共被听もつとる及

光佐上人殿下の  
遠謀と受る  
借ふ薩州の

諸民

化益せん  
獅子島  
法話を



間亦一乃且ども是と知る者有てなきは是非不及むぬ  
 おとふこそ誠不考居座下の英智の量こそ林亦且母亦  
 り。既ふ此変秀吉公時陣家退治の凶軍馬と発し、下向  
 まし、く、乃ら不周平野糟谷の密ふよろあひ何年従来  
 探知する地理案内佐般の洞と言状ありまのせんと  
 さまぐの思慮と廻らさうち不早くも座下の清軍勢  
 薩及の地不亂入して大平寺不忌陣ましく、陣所と博  
 大不構より一と追ふまきこへ乃らゆえ平野遠に守糟  
 谷内膳正ひそり不上人へ冷き乃らよろ蒸ふひとつの  
 謀畧あり那般く不作せらば亦門徒等さざんで上  
 人と送出しまいらせん。今此所と出むんば去来以來の

辛勞も徒りとお成べし。おは皆天下の所おふは、西意  
 強く料理をせしぬふべしと勸め乃ら不ぞ上人その義  
 不順ひ玉ひ候不院既送場房と西召あり我此國不來り  
 てより門徒の牽別と惜みて強て止め乃ら不より。是派  
 まふ獅々不執率して今日までも在つら。量らむも  
 國中不勅起り勢時も安座志がくおもへり。若此國  
 の危急とえて退去せんこと本意あるねど在て切なき  
 出家の身あり。それむりりハ欺る礼裡不門徒の介抱  
 と受んこと却て災と振く不似たり。早く退去ありし  
 おもへり。然りと一ども陸道ハ上方の軍勢充満する  
 よしと所然をば容易く通り得ること能ふま。何と



の地よりり逃出べき道ありは案内せよと宣ひたり。逃  
 場房取所り作一く至極ふ。此地ふ苗めまのりて  
 危難ふも逃せむは恐おちきりふ。死時ふ門徒等と  
 候合ふ。巨く強ひふをべし。此ハ一條道ふして外ふ  
 出べき道ふといえども。海上と近くふおひてハ近路  
 ありよ。承所及びぬ。これと知るもの稀あら。門徒の  
 うちと尋ねふ存せし者もいらせんとて上人の化益  
 小服し。る農家者戸の門徒と拓き上人の作せと言所  
 せ。報恩のこめふ見ば各共ふ力を勤せ。ひそりふ送りま  
 からむべしといふ元來一向門徒の族ハ上人の事と  
 いえ。命令も破さへべき備群ゆえ。何うハもつて辞退をべ

き。死時案内ふ。まのりて。獅子橋の浦ふて。船ひる。  
 こは。上人と乗とて。まつり。密に送り出。まのりて。京  
 泊。直到ふ。ぬ。時。案内の。老言を。よ。此。辺。ハ。上。方。の  
 大軍。名。船。と。船。並。海。路。を。看。守。り。以。得。ハ。容。易。ハ。通。言。は  
 ま。ト。路。と。轉。て。日。別。不。針。き。細。海。へ。送。り。た。て。ま。つ。ら。ん。と  
 いふ。平。野。雜。谷。を。と。り。て。否。日。向。境。ハ。今。程。合。戦。最。中。ふ  
 る。よ。然。を。見。ハ。却。て。さ。ち。あ。く。ん。も。後。ら。を。む。此。辺。も。つ  
 と。も。上。方。の。徳。軍。勢。充。は。ま。る。と。い。ふ。と。い。え。ど。も。其。中。ふ  
 ハ。上。人。の。化。益。を。受。く。る。門。徒。も。あ。く。ん。然。を。見。ハ。さ。の。こ  
 各。悩。ま。る。む。こ。と。陸。小。登。上。り。蹊。蹊。を。窺。ひ。も。ふ。さん  
 小。快。此。舟。と。漂。へ。急。よ。と。棹。子。輩。小。指。圖。して。船。を。京。泊。ふ

急者ふさしめ陸上の相とるうぐとんと道場居その外  
 の案内者ふ言觸し平野箱谷の主従の陸上より直  
 地ふ履下の津本陣太平精舎ふ都きり色バ履下吊時ふ  
 召寄らる案内の義と凡紙ある長泰武刑格で昨年來の  
 始終國中地理の案内うら津津家法士の強弱判純因も  
 一見もせし次第と委しく言状ふ返んで后此度門徒の  
 案内者と加交期く如くの料らひふし此地へ急船あり  
 つることまで落もふく松えり色バ履下基く山森悦ま  
 しく平野箱谷が切符と凡紙あり種くの子と凡同  
 合あそむさし加後赤明とめて獅子橋船と夜後ふさし  
 め然して光佐と太平寺へ振うせふ履ひ履下とつうら

對面ましく去年來より数月の弓遠國小逗留あり殊  
 不幸ありたり此處上人ふりりせば西海の静謐に  
 こやうありあとお能ふまどきふ此切唯り及ぶべきそ  
 せふつきて程持むべき一乗あり此子とあり果せむん  
 ば梯と造るふ其離垢眼と入ざりが如し平今言ま可と  
 もて強ふべきやと宣ひらると上人も背むふ道なくい  
 りある候ふいと天下万民のさめあふば此更もろし  
 をべらんと答ふ履下大ふ水飲びあり然バまづ及場居  
 と振きこら大軍と藩戸の地へ案内をべきや否やと同  
 せんと光佐上人とををささる及場居と振うせし履ひ履  
 下の水糸へ召出さるる上人とめて及場居へ一通の義

豊民言九卷之十

と皮せらるる是は乃た場所情で怒をなから履下の作は遠  
 背ありなりとも師命へ決して持くまじ如何あり義の  
 ひともし業もろいひと答ふまじ子周て秀吉と浅野長  
 政子命せらるる子細お中同らるべいと宣ひらるる子孫  
 正長改衣紋綴ひ進て出で此度履下尚圍へ山下向ま  
 まを思百ハ強羽津と亡さるべき心ありて備ふ天下  
 太平のとめみして治玉安成の也えぞろい今も備ふ  
 家降来まさば教さるべき心ありふ斯のおとく款對  
 あし骨て帰彼の色とえさるべ帰地ふ攻逼成せらるべ  
 きり勿論ふれども教代の名家とらとめて程仁義の  
 此科當ふおをまといえども帰彼せざれば命をまを大

軍と率て單騎急ふ扼ぎなはいらある時津もふどり全  
 きりと得んや然されハ款も自分も士卒の換亡ゆ  
 まりうむむそれと痛ましく思ひめさるいりおもあして  
 時津家と快く帰せしめんとめ其方とめて案内者とし  
 自方の諸將と密に獅子崎へ一旦入其より直地ふ鹿兒崎  
 へ推進させ義久父子と誇りしめて帰彼せさせん此科  
 理あり汝等國家のとめと思はる師命をたひ誠心とも  
 つて履下の内勢と案内をべい遠背不及む時津家も  
 ろとも薩攻の人民等一人も残さず血ふせん如き國家  
 と兵りお治まるハ是若根の第一ありと利害と望して  
 説所まるおぞ上人も念情より履下の命令まふ有ら

きり斟酌あり。速く承もろをべし。弥陀の利益も云明  
 煩悩の大敵と新除不退上蓮花の菩薩と勅むる願願ふ  
 らむや。運邊度下の台命ハ縱令其苦二河白道と洩るら  
 おとく思ふとも。思惑のちんのう不誘引を心と至信不  
 策勵して。内業内ふ一果せば。到極楽の無苦身あり。貪瞋  
 痴疑の水火不溺惑ふさむして。台命ともて。内奉をべし。  
 内房ハ仰使發遣の教有るぞ。然されば。卷居度下ふハ  
 取も精さむ。教王の弥陀ふて。おをを。自脩も。來迎引接の  
 聖母の一個ともおもへり。努く執疑して。迷ひあせそ。  
 弥陀の慈願ハ一心の衆生と。攝取不捨とこそ誓ひとぬ  
 えり。一心仰至誠心あり。三心具足の汝等が業内こそ一

心の悲願。取正軌うち揚て。とどの法國へ。航る不存一。  
 策勵や。たげめと。宣ひり。且ハ。素より。門徒の輩ハ。上人の  
 語言。詞と。弥陀の。說法と。耳が。如く。思ひ。教。ざる。緯。を。且。ハ。  
 何う。ハ。も。つて。背。く。べき。備。ふ。奉。ふ。ま。い。り。せ。業。内  
 も。ろ。を。べし。と。誓。と。記。て。繕。ふ。ひ。り。り。也。え。度。下。の。内。在。院  
 り。ぎ。り。なく。然。ハ。不。日。不。計。儀。と。成。發。攻。逼。ん。と。懷。發。され。  
 その。内。準。儀。も。一。あり。所。へ。日。向。口。の。大。將。秀。長。々。も。法。  
 軍。と。率。ひ。て。内。急。あり。度。下。不。對。面。ふ。ま。い。り。せ。日。及。上  
 合。戦。の。始。終。と。詳。不。言。状。せ。り。且。と。り  
 略。降。家。久。休。降。帰。謀。度。下。屬。殿。下。神。通  
 繩。索。い。り。不。長。く。とも。白。日。と。繫。ぐ。こと。と。得。べ。り。ん。意。不

鴻津中務太史家久ハ耳川宮城後逼の時墨田等のため  
不利を棄てて本城佐土原へ退去す。きびしく牢城志  
りるところ不慮下の大軍肥後より薩州へ侵入し  
且バ太守義久義弘も遂に鹿兒嶋へ帰城せしむ。宮城  
も降参して日向の一國のまへにや。只佐土原の一城の  
も。敵中不取残さし助る自方へ傳ふもおよむ。薩州よ  
りの通路さへ絶て往來の秘をねば。消息を聞くとあ  
をむ。只防戦の用意のそあり。然るもよつて進方の大將  
大納言秀長ハ大軍ともつて佐土原へ進軍せしむ。分  
とせ。攻立らばとも。家久智勇の良將をば。望も屈まら  
ぬ。色なく。秘術をつくりて防ぎらる。也。え。急。不。落。城。を。べ

ふも。と。え。む。然。り。と。い。え。ど。も。城。將。家。久。佐。方。の。時。と。つ。と。  
え。き。く。不。秀。若。公。子。代。川。不。お。ひ。て。新。納。保。集。院。と。斬。断。し。  
麻。兒。嶋。の。城。へ。退。ぞ。り。せ。上。方。督。ハ。その。威。不。棄。て。京。師。  
まで。推。逼。ら。ば。大。不。陣。所。と。布。連。ね。國中。不。敵。克。波。し。り。と。  
ハ。日。向。の。路。條。海。陸。とも。不。上。方。督。不。立。塞。ら。ば。通。路。自。在。  
あ。ら。ざ。ら。よ。し。と。取。く。の。塘。敷。あ。ら。ば。え。家。久。深。く。思。慮。と。  
也。ら。し。研。詮。此。城。不。拮。拮。り。い。ら。ば。ど。防。戦。不。た。と。い。ふ。と。  
も。上。方。督。と。こと。と。く。を。退。拂。ふ。こと。ハ。叶。ふ。ま。じ。左。右。を。  
る。うち。本。城。麻。兒。嶋。若。も。危。急。不。逃。び。な。ハ。い。ら。あ。る。變。り。  
の。犯。ら。ん。も。念。も。つ。て。量。り。ぐ。と。し。術。を。戦。死。さ。る。もの。あ。  
ら。バ。親。族。共。不。集。合。て。死。を。こ。そ。我。士。の。本。意。な。と。い。ら。不。

不遜くと耻とをとも。君一隊にて此小止り。若死をとも  
英く一うらむ。何卒本國へ立取り。我久我弘と一も。小  
り存亡と共みせんものと思ふといへども。進名の大軍。稲  
波竹園の如くあらゆ。此大敵と斬抜てぬるべき。おと  
あり。ぐとり。色バ。敵と欺て降参。一謀と。おらして本國  
え帰らんと心と決して。使者と。一秀長の陣へ言入り  
るよう。家久弓。折。渡。て。此城と。もて守得ること。叶ふべ  
ふ。も。いら。ね。バ。降参。と。願ふ。所。あり。是と。敵。一。玉。を。ら。ん  
や。若。集。引。あ。き。お。於。て。一。徒。小。城。と。守。り。士。卒。と。長。く。号。せ  
ん。より。速。小。攻。て。出。陣。中。み。て。お。死。を。へ。ふ。存。を。る。あ。り  
と。言。を。一。り。の。ふ。より。秀。長。の。信。將。と。集。ら。は。今。家。久。の。信。

津家無双の智將より。いりて。容易。小。降。参。を。べき。定。て  
こ。目。ハ。情。あ。る。ん。い。り。が。返。着。あ。を。べき。や。と。陣。後。小。返。を  
是。り。り。此。時。小。早。川。隆。景。進。出。作。の。お。と。く。家。久。が。本。心。を  
り。ぐ。く。い。ぬ。ご。も。降。参。と。願。免。あ。き。時。ハ。い。り。ふ。も。渠。が  
言。を。お。と。く。必。死。の。合。戦。つ。り。ま。つ。ら。ん。然。を。れ。バ。自。方。も  
多。く。損。ひ。に。我。の。道。も。缺。ぬ。べ。一。只。嚴。密。小。用。心。あり。降  
参。と。ゆ。る。さ。せ。む。ひ。當。城。と。一。交。面。あ。る。小。お。ひ。て。ハ。日。列  
全。く。小。お。入。陣。時。小。薩。及。へ。一。戦。あり。辰。下。と。一。お。小  
あり。玉。を。ん。こと。然。る。べ。く。いら。を。ん。若。此。城。攻。小。間。ど。り  
う。ち。薩。及。平。徳。小。返。ひ。あ。バ。此。子。の。信。將。面。目。と。失。な。を。ん。  
さ。目。ハ。家。久。が。降。参。と。幸。ひ。に。我。と。こ。せ。て。一。教。あり。薩。が

へ推入おしこ五ごもんこと上策じやうさくありと初めはじりりり小こぞ秀長ひでなが々々あ  
 且かつ小こ同どう意い一人保ひとほと捕とらて降系くわんけいと救きうさささるる色いろハ家久いえひさ森もりひ  
 けけりりなく早速さつそく佐土原さどはらの城しろと開ひらき秀長ひでなが々々のご本陣ほんじん小  
 来きりり弁舌べんじやうとと備ひなき旨さだとと言い給たまひまつつととく降系くわんけいあ  
 々々のの也や一將いつしやうとと行ゆて城しろと交ま取とらせ自方みづかたの各おの小ことと  
 守まもらせ家久いえひさと將しやうてて原下はらした小こ謁せつせせ一いつれんととて佐土原さどはらと陣じん  
 拂はらふふ一いつ法將ほふしやうとと若わ小こ太平たへいちち小こ若わ若わあるあるる原下はらした大おほ小こ水森みづもり悦えつ  
 ありありり希時きとき小こ對面たいめんままししままさんさんととて作あ出いささささるる小こよりより。  
 秀長ひでなが々々家久いえひさと伴ともひひ内茶うちぢや小こ出い玉たまひひ一いつららハ秀吉ひでよし公こう内院うちいんあ  
 りありりて家久いえひさハ智謀ちぼうああるる將しやうと听きつつらら何なに也や今いままで降系くわんけい  
 せせざるるや。降くだ津つのの牽ひ天地てんちとと登のぼりり須弥山すみせんとと岩いわささのの勢威せいゐあ

りりともも。王土おうど小こ勝かつの利りああるるんんやや所詮よせんおおよよむむざるるままととハ。  
 理り非ひ分ぶん明めい小こ知ちるるものものとと自おの己ののの武勇ぶゆう小こ驕慢きやうまんなな。國こく戰せん  
 せんせんととままるるままととハ。自滅じめつとと拓たくくくのの基もとありありりとと宣のたまををままるるとと  
 家久いえひさううけけむむ。滅めつ小こ水みづ徒たああるるままととくく水みづ敵てき對たいふふ一いつままわわ  
 ままるるハ。慥たつををざるる分ぶん明めいななれれどどもも薩長さつちやう武ぶ士しのの智ちととしてして。  
 阿あ容ようくく降系くわんけいせんせんままとと偏辟へんぺき小こもも耻ちととああるる得え弓きう箭せん  
 力りきのの迫おふふととけけハ。防戰ぼうせんととののままららけけ此この初はじ小こ及および  
 小こありありり。家久いえひさ今いま更さら先せん祖その家う蹟せきとと失しふふままんんここととのの歎なげりりハ  
 一いつ々々ハ。萬望まんにぼう義ぎ弘こう小こ利り害がいとと説とてて降系くわんけいななきき一いつ々々。家か名な  
 全ぜんなききししめめここ小こ乃すなは士し渠け倚い小こ先せん達たつて降系くわんけいとと乞こなりりしし幸さいにに也  
 免めんとと羞かたじけりり。忠ちゆう悛しん此この上うへ有あるるべべくく。將かもも實じつ仁にんとと垂た給たまひま民たみをを救きうのの也や

皇國言大綱卷之七

島津義弘  
深く計る  
佐々成政と  
空谷の  
間小欺導





あゝハ乃士として庶兒不<sup>レ</sup>行<sup>レ</sup>りぬまひ。一家の族と  
 況<sup>レ</sup>んことの内<sup>レ</sup>許<sup>レ</sup>あ。不<sup>レ</sup>おひてハ義久<sup>レ</sup>義弘と帰<sup>レ</sup>披<sup>レ</sup>あ  
 さしめ伴<sup>レ</sup>ひ来<sup>レ</sup>りいらちんと死<sup>レ</sup>ひりらと秀<sup>レ</sup>長<sup>レ</sup>の傍<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>在<sup>レ</sup>  
 て家<sup>レ</sup>久<sup>レ</sup>が死<sup>レ</sup>ひ然<sup>レ</sup>ることあぐ。新<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>降<sup>レ</sup>系<sup>レ</sup>の身<sup>レ</sup>もつて  
 獨<sup>レ</sup>本<sup>レ</sup>城<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>到<sup>レ</sup>らんとの条<sup>レ</sup>法<sup>レ</sup>士<sup>レ</sup>の所<sup>レ</sup>思<sup>レ</sup>もい<sup>レ</sup>り<sup>レ</sup>あり。縦<sup>レ</sup>令<sup>レ</sup>  
 是<sup>レ</sup>下<sup>レ</sup>の心中<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>謀<sup>レ</sup>畧<sup>レ</sup>変<sup>レ</sup>化<sup>レ</sup>ハあしといふとも。利害<sup>レ</sup>と況<sup>レ</sup>て  
 義<sup>レ</sup>久<sup>レ</sup>義<sup>レ</sup>弘も一<sup>レ</sup>得<sup>レ</sup>心<sup>レ</sup>せざるときんむ。是<sup>レ</sup>下<sup>レ</sup>あぐ。び帰<sup>レ</sup>ら  
 るまじ。此<sup>レ</sup>義<sup>レ</sup>と能<sup>レ</sup>く遠<sup>レ</sup>魚<sup>レ</sup>あし然<sup>レ</sup>して庶<sup>レ</sup>兒<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>行<sup>レ</sup>りはよ  
 と有<sup>レ</sup>係<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>及<sup>レ</sup>下<sup>レ</sup>の内<sup>レ</sup>舍<sup>レ</sup>弟<sup>レ</sup>が本<sup>レ</sup>性<sup>レ</sup>と當<sup>レ</sup>らる一言<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>務<sup>レ</sup>とせ  
 しりど智<sup>レ</sup>肝<sup>レ</sup>の家<sup>レ</sup>久<sup>レ</sup>色<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>ハ女<sup>レ</sup>も見<sup>レ</sup>さむ。復<sup>レ</sup>歎<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>笑<sup>レ</sup>て斯<sup>レ</sup>  
 ハ不<sup>レ</sup>むあ<sup>レ</sup>り疑<sup>レ</sup>ひ然<sup>レ</sup>思<sup>レ</sup>さるも理<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>ども。元<sup>レ</sup>来<sup>レ</sup>義<sup>レ</sup>久<sup>レ</sup>

義<sup>レ</sup>弘<sup>レ</sup>共<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>家<sup>レ</sup>久<sup>レ</sup>をもて一方<sup>レ</sup>の將<sup>レ</sup>々<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>め軍<sup>レ</sup>子の指<sup>レ</sup>圖<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>  
 改<sup>レ</sup>まで一<sup>レ</sup>として二<sup>レ</sup>が知<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>持<sup>レ</sup>りむ。あぐともつて思<sup>レ</sup>慮<sup>レ</sup>と  
 出<sup>レ</sup>らる。國家<sup>レ</sup>のよめ不<sup>レ</sup>利益<sup>レ</sup>とんことと思<sup>レ</sup>ひ。形<sup>レ</sup>骨<sup>レ</sup>碎<sup>レ</sup>身<sup>レ</sup>  
 まらまでも。利<sup>レ</sup>解<sup>レ</sup>をもつて勅<sup>レ</sup>めん不<sup>レ</sup>よ。もや否<sup>レ</sup>とハ言<sup>レ</sup>む  
 生<sup>レ</sup>じ。万<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>帰<sup>レ</sup>披<sup>レ</sup>せざらぬ。時<sup>レ</sup>ハ速<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>立<sup>レ</sup>ぬらん。薩<sup>レ</sup>平<sup>レ</sup>武<sup>レ</sup>士<sup>レ</sup>ハ編<sup>レ</sup>  
 固<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>して一<sup>レ</sup>度<sup>レ</sup>款<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>降<sup>レ</sup>り。者<sup>レ</sup>と城<sup>レ</sup>中<sup>レ</sup>へハ止<sup>レ</sup>盡<sup>レ</sup>む。己<sup>レ</sup>はも  
 一個<sup>レ</sup>の大<sup>レ</sup>丈<sup>レ</sup>丈<sup>レ</sup>あり。一言<sup>レ</sup>片<sup>レ</sup>句<sup>レ</sup>口<sup>レ</sup>外<sup>レ</sup>せし。い<sup>レ</sup>りてり再<sup>レ</sup>び  
 復<sup>レ</sup>むべりんや。名<sup>レ</sup>祝<sup>レ</sup>族<sup>レ</sup>の情<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>繋<sup>レ</sup>ぐ。信<sup>レ</sup>義<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>持<sup>レ</sup>て。庶<sup>レ</sup>兒<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>  
 不<sup>レ</sup>止<sup>レ</sup>まらぬ。乃<sup>レ</sup>士<sup>レ</sup>あぐ。ハ。自<sup>レ</sup>方<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>在<sup>レ</sup>とも。益<sup>レ</sup>益<sup>レ</sup>あぐ  
 ん。不<sup>レ</sup>實<sup>レ</sup>あぐ。ハ。乃<sup>レ</sup>士<sup>レ</sup>あぐ。ハ。自<sup>レ</sup>方<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>在<sup>レ</sup>とも。益<sup>レ</sup>益<sup>レ</sup>あぐ  
 ひハ書<sup>レ</sup>通<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>て。往<sup>レ</sup>来<sup>レ</sup>まらるとも。如何<sup>レ</sup>でり。調<sup>レ</sup>達<sup>レ</sup>ことと。得<sup>レ</sup>べ

乃人。史として、徳川家を攻め、利き、人、以て、あ、る、は、是、れ、不  
 及、む、む、若、寛、仁、の、思、ふ、ふ、て、無、事、を、置、ら、ひ、玉、ふ、と、あ、る、は、  
 今、乃、士、が、死、ふ、所、と、以、て、安、居、け、玉、り、の、べ、と、憚、る、色、あ、く  
 言、り、乃、士、秀、右、公、同、一、ゆ、り、の、り、も、亦、久、が、言、葉、武、道  
 の、義、理、を、立、抜、一、言、も、つ、と、も、至、極、不、お、お、え、と、り、聖、不、ま  
 り、せ、て、故、を、べ、り、色、は、繼、く、義、久、父、子、不、示、一、て、而、が、許、へ  
 伴、來、る、べ、い、さ、さ、り、汝、を、疑、む、と、宣、ふ、不、ぞ、徳、川、家、久  
 勢、不、あ、と、限、り、な、く、膽、を、乞、ふ、て、拜、時、不、準、値、し、な、好、ハ、本  
 陣、不、殘、を、近、習、と、言、む、乃、士、率、を、元、麻、兒、將、當、て、ぞ、急、が、色  
 り、乃、乃、各、庫、頭、義、弘、が、在、陣、赤、崎、不、立、寄、て、始、終、を、信、り、こ  
 色、と、憚、ひ、本、城、不、立、寄、る、太、守、義、久、半、疑、半、信、一、不、が、る、も、

家、久、と、本、丸、不、立、入、は、對、面、一、て、密、談、志、々、乃、乃、不、家、久、言  
 出、り、乃、乃、や、う、此、度、秀、右、大、軍、と、將、て、南、北、兩、道、より、入、る、  
 船、中、肥、後、の、諸、軍、將、早、く、も、以、國、不、充、満、一、て、日、向、境、の、通、  
 路、塞、り、乃、士、獨、佑、土、原、不、在、と、い、ふ、と、も、徑、不、き、由、え、國、  
 不、さ、ん、と、欲、む、と、い、え、ど、も、路、次、不、敢、無、盈、亮、と、色、ハ、容、易  
 ぬ、る、お、と、と、得、む、こ、色、不、周、て、計、儀、と、言、う、一、矣、言、と、言、セ  
 て、降、参、不、一、毎、舌、と、も、て、欺、き、一、乃、乃、秀、右、兄、弟、送、ひ、と、取  
 り、我、不、令、乃、て、況、客、と、一、む、こ、色、不、よ、つ、て、恙、あ、ら、ぬ、  
 り、と、得、て、い、と、始、終、と、つ、ふ、さ、不、演、説、一、乃、乃、色、ハ、義、久、所、て  
 眉、根、と、擡、め、汝、が、帰、城、ハ、遠、理、不、當、と、言、ふ、と、從、者、と、故、中、不、殘  
 一、盡、て、汝、來、る、ハ、不、仁、あ、る、べ、い、某、方、と、不、止、在、ハ、從、者

却て害せらるべし。おは不仁にあらずやとのふと家久  
 うち笑ひし率と一人も殺さんとあらずば佐土原より突  
 発し。途中の敵と歩破り斬抜て取るべきふ。去のんで  
 階系を一つづつハ士率と一人も失ふまじく思へばあり。  
 君今取来りしも。反答を計らんと存むるがゆえ此城中  
 ふハ止るべりしむ。再び敵陣ふ立取り。いよく。美意を  
 見せりけて却て敵と歩破らんとを甚す。ふつき所業を  
 きい。顔て自國ふ役けし。ふ計機といふ如何なる方術  
 ぞと尋官せし。うば久矣弘燒撃の計畧を繕しく。後り  
 りんと同矣。ふ奇術あり。彼謀あり。然といへども此まじ  
 みてハ秀吉を欺き得ること能ふまじ。その所謂いりん

とこととといふ。ふ吾能敵の隊伍をとるふ。いつとも悟深  
 ふして秀吉の下知なきとき。人ハ出軍をまじき結構あ  
 り。然をば。縦令此方より。戦を催さとも。多忽。ふ隊伍と  
 勅り。たまに。敵名陣と守るふ。おいてハ。彼乃條へ。勾引り  
 ん。むとも。謀計いし。つらふ。あんぬべし。乃士降系せし。こ  
 そ。幸なき。よく。互間と行ふて。奇計と助り。もう。さんとい  
 ふ。幾久。あお。危。て。某方。帰。りて。秀吉。ふ。返。答。い。り。ふ  
 やい。ふ。若。日。見。不。服。と。悟。り。あ。ば。某。方。が。命。全。り。の。ま。じ。殆  
 危。く。お。も。ふ。あり。と。听。て。家。久。吟。笑。ひ。日。れ。敵。中。ふ。在。こ。と  
 ハ。危。き。ふ。似。こ。と。ど。も。進。退。も。つ。と。も。自。在。あり。倭。名。秀。吉  
 への返答ハ。家久。智。舌。と。振。ふ。とい。え。ど。も。幾。久。心。中。鉄。石

不<sup>あ</sup>して<sup>ら</sup>為<sup>ら</sup>てもつて<sup>た</sup>從<sup>つ</sup>せむ<sup>ら</sup>牢<sup>ら</sup>城<sup>ら</sup>を<sup>へ</sup>き<sup>く</sup>覺<sup>ら</sup>ぬ<sup>ら</sup>を<sup>ば</sup>あ  
 せと<sup>と</sup>死<sup>と</sup>こと<sup>能</sup>む<sup>し</sup>て<sup>徒</sup>不<sup>り</sup>帰<sup>り</sup>て<sup>い</sup>此<sup>の</sup>上<sup>は</sup>是<sup>非</sup>不<sup>及</sup>む  
 む<sup>賢</sup>賢<sup>不</sup>任<sup>さ</sup>る<sup>べ</sup>い<sup>と</sup>言<sup>さ</sup>ば<sup>勇</sup>勇<sup>不</sup>端<sup>る</sup>上<sup>方</sup>武<sup>士</sup>出  
 戦<sup>せん</sup>こと<sup>必</sup>定<sup>あり</sup>その<sup>圖</sup>圖<sup>を</sup>計<sup>て</sup>搦<sup>不</sup>臨<sup>る</sup>後<sup>不</sup>應<sup>じ</sup>  
 て<sup>これ</sup>も<sup>抜</sup>ら<sup>む</sup>敵<sup>と</sup>欺<sup>き</sup>も<sup>う</sup>を<sup>べ</sup>り<sup>を</sup>ば<sup>快</sup>快<sup>く</sup>用<sup>意</sup>志  
 ろ<sup>し</sup>め<sup>せ</sup>と<sup>潔</sup>く<sup>初</sup>め<sup>り</sup>る<sup>不</sup>ぞ<sup>義</sup>義<sup>久</sup>義<sup>弘</sup>義<sup>隆</sup>義<sup>隆</sup>義<sup>隆</sup>義<sup>隆</sup>  
 刺<sup>不</sup>及<sup>んで</sup>后<sup>家</sup>久<sup>ハ</sup>別<sup>辞</sup>と<sup>告</sup>太<sup>平</sup>寺<sup>へ</sup>ぞ<sup>返</sup>り<sup>り</sup>る<sup>時</sup>  
 津<sup>方</sup>不<sup>ハ</sup>義<sup>弘</sup>と<sup>を</sup>し<sup>め</sup>各<sup>お</sup>場<sup>不</sup>出<sup>陣</sup>して<sup>上</sup>方<sup>將</sup>と<sup>お</sup>  
 破<sup>らん</sup>と<sup>軍</sup>用<sup>者</sup>あり<sup>り</sup>る<sup>一</sup>信<sup>念</sup>圖<sup>白</sup>秀<sup>吉</sup>公<sup>ハ</sup>家<sup>久</sup>鹿  
 兎<sup>鳴</sup>不<sup>お</sup>き<sup>て</sup>より<sup>返</sup>答<sup>い</sup>り<sup>ふ</sup>と<sup>侍</sup>せ<sup>と</sup>ぬ<sup>え</sup>り<sup>時</sup>不<sup>後</sup>  
 將<sup>后</sup>下<sup>と</sup>禱<sup>めて</sup>今<sup>家</sup>久<sup>が</sup>能<sup>ひ</sup>と<sup>解</sup>し<sup>放</sup>放<sup>し</sup>と<sup>ぬ</sup>ひ<sup>し</sup>

ハ<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>失<sup>ふ</sup>ハ<sup>い</sup>は<sup>ら</sup>た<sup>む</sup>や<sup>渠</sup>が<sup>降</sup>参<sup>候</sup>り<sup>あ</sup>る<sup>ん</sup>不<sup>忍</sup>ら  
 く<sup>ハ</sup>自<sup>方</sup>の<sup>陣</sup>へ<sup>再</sup>び<sup>帰</sup>り<sup>い</sup>ま<sup>し</sup>と<sup>聆</sup>唱<sup>を</sup>て<sup>秀</sup>吉<sup>公</sup>鞭  
 然<sup>と</sup>笑<sup>を</sup>せ<sup>と</sup>ぬ<sup>ひ</sup>汝<sup>等</sup>の<sup>執</sup>疑<sup>理</sup>あり<sup>い</sup>り<sup>ふ</sup>不<sup>も</sup>家<sup>久</sup>  
 升<sup>強</sup>と<sup>合</sup>て<sup>傍</sup>降<sup>る</sup>もの<sup>不</sup>也<sup>と</sup>も<sup>念</sup>鹿<sup>兎</sup>鳴<sup>不</sup>も<sup>止</sup>る<sup>ま</sup>  
 一<sup>是</sup>此<sup>陣</sup>不<sup>從</sup>衆<sup>多</sup>く<sup>止</sup>め<sup>盡</sup>それ<sup>の</sup>も<sup>あ</sup>る<sup>む</sup>智<sup>勇</sup>の家  
 久<sup>及</sup>同<sup>な</sup>どの<sup>升</sup>強<sup>と</sup>企<sup>再</sup>三<sup>と</sup>を<sup>欺</sup>く<sup>あ</sup>る<sup>ん</sup>が<sup>我</sup>も  
 念<sup>家</sup>久<sup>が</sup>降<sup>集</sup>せ<sup>し</sup>と<sup>謀</sup>畧<sup>の</sup>種<sup>と</sup>せん<sup>秀</sup>よ<sup>く</sup>時<sup>津</sup>と  
 平<sup>治</sup>せん<sup>こと</sup>近<sup>き</sup>不<sup>あ</sup>り<sup>と</sup>宣<sup>ひ</sup>り<sup>を</sup>ば<sup>徳</sup>將<sup>ま</sup>を<sup>く</sup>  
 感<sup>報</sup>して<sup>疾</sup>と<sup>叩</sup>て<sup>還</sup>座<sup>せ</sup>り<sup>程</sup>不<sup>久</sup>家<sup>久</sup>返<sup>る</sup>よ<sup>し</sup>と  
 聆<sup>し</sup>唱<sup>さ</sup>せ<sup>て</sup>秀<sup>吉</sup>公<sup>吊</sup>時<sup>不</sup>家<sup>久</sup>と<sup>召</sup>出<sup>さ</sup>せ<sup>返</sup>答<sup>い</sup>り  
 不<sup>と</sup>同<sup>せ</sup>と<sup>ぬ</sup>え<sup>ハ</sup>家<sup>久</sup>信<sup>で</sup>然<sup>ハ</sup>乃<sup>士</sup>義<sup>久</sup>父<sup>子</sup>不<sup>對</sup>し

て。國家存亡の利害を解と解さままぐ。勅めいえども。兩人抱  
 まて。意地を立決して。唯帰つりまつらむ。却て。是を不  
 義獲病の教。絨ありと呵罵り。返出いひ。元勅むべき使  
 臣と失ひ。帰く。帰りにあり。此上ハ。是れ。不道なる。賢  
 然るべし。と言状を。秀吉公。聆し。然る。時ハ。授あり。征  
 伐せむ。ん。バ。私ふ。ま。家久。糾隊。不進む。べき。や。と。為。白。玉  
 ふ。と。家久。拜膜。於。階。案。つ。り。まつ。る。う。へ。糾。軍。不。進。ん。で  
 軍。回。と。致。し。教。恩。を。べき。後。亦。是。ども。此。交。の。先。登。不。お。ひ  
 て。ハ。只。策。以。免。と。被。り。し。と。思。込。で。辞。退。亦。是。下。席。と  
 進。ま。せ。し。由。ハ。大。槩。降。人。の。習。ひ。し。る。こと。縱。令。大。將。の。命  
 なくとも。こ。色。り。好。で。先。降。不。進。る。自。方。を。辱。く。後。亦。有

小辞退まらるこそ不慮亦是と。鞫問せし。是。り。を。家。久。亦  
 初。意。と。蒙。る。ま。と。忍。入。て。い。あり。吾。降。案。ハ。後。業。を。登。り。一  
 命。と。惜。て。の。不。お。あ。る。ま。單。不。降。津。の。家。長。久。國。土。の。安。穩  
 と。你。く。思。ひ。所。詮。下。の。軍。不。ハ。款。對。せん。こと。趣。ふ。ま  
 ト。き。と。案。一。吾。ま。づ。幕。下。不。降。隊。亦。一。家。の。輩。を。死。陳。め  
 親。族。共。不。降。案。一。て。家。名。を。全。ふ。せん。と。た。も。ひ。陳。め。つ。是  
 ども。義。久。及。子。偏。碎。不。一。て。殊。を。用。ひ。む。至。家。の。是。急。且。夕  
 不。迫。る。と。い。え。ども。己。不。誓。ひ。一。詞。も。あり。信。義。不。背。り。ぬ  
 降。人。の。家。久。祝。族。と。捨。家。國。を。弃。ふ。と。び。以。降。不。返。り。一  
 あり。然。り。と。い。え。ども。魏。一。く。先。隊。不。進。ん。で。款。と。せ。ば。父  
 兄。あり。國。主。あり。其。互。親。不。双。向。ふ。こと。も。つ。とも。不。孝。の

至あり三子の罪も不孝より大あらへる一とこそ兼所  
 たる此多をもつて先隊を以て免下さるべう取へり然  
 ども達て命せしむるは是非もなき事小の君小命と  
 てまつり信義と國家不報捨して正料不亦死つらまつ  
 るより外不分別いらむと落涙と共不言状一はをば  
 秀吉公の感ましく家久が孝義然こそあらめ其心  
 根と聆小おひて何ぞ先隊小命をべらんや後日他國  
 の合戦小勲切せよと宣ふて家久を退出なき一めて后  
 盾下徳將小作せりわの又よく確陣家久へ容易不屈  
 する者小あらずま不槽檻を疎小して虎と養ふ不存一  
 うん呼怒ろ一き檻斂士ら決して陣取をべうとむ

と浅野田降須賀小密小命にて内外の用心もつと  
 も嚴小倣させとぬえり  
 種為大膳歎引佐く勢一属 成政難戦  
 又陣の中不ハ一括と不も去とと難去とこそ不難去  
 て害なきものハ仇殺のそ夫と去さば却て害あり取  
 るべき者ハ速小取り捨べきものハ速小捨んも智至ら  
 ざば成ぐと一あし小関白秀吉公の身の取捨を謀ら  
 せむ一あり是虎痛矢の密計あり時小確陣義久ハ  
 家久が及間の計謀小因て快合戦と初むべ一と義弘よ  
 り京泊ある陣小留在る種為大膳の方へもろ一送  
 り。その外形納作集院倚の陣中へも子細小換子と告知

らせ。故と聲すべき用とをなさしむ。是も固て大膽を以て三  
 子余騎と率て上の方路の陣に推進口く。小悪口志つ  
 も。多銃をこし。お蒐り。松浦大村施造ち併それあり。ふ  
 く。小味津と吞て待てる。折あり。今此勝云と听と等しく。  
 此も。折縁をささへ。こそ大將の下知も。迂遷先お捉やと  
 たり。く。たや合戦と始め。より先隊の諸將も。心中。小  
 鬱断と。なして。居る。る。ゆえ。おとを止む。相。おて。出  
 一。二。三。小斬立る。種。略。ハ。其。ハ。得。より。と。三。子。余。人。を  
 一。子。小。ふ。し。火。水。小。あり。て。攻。戦。ハ。十。分。敵。を。喰。付。て。時  
 分。と。得。ぐ。ひ。退。返。を。務。小。乗。より。上。方。路。退。お。せ。んと。進  
 たり。は。は。下。こ。を。と。听。し。め。さ。は。佐。く。陸。奥。守。成。政。小。命

せ。ら。は。案。小。進。ま。は。る。失。あ。る。人。急。ぎ。自。方。の。危。急。と。救。ひ。  
 引。上。帰。き。と。作。せ。り。ゆ。ゆ。え。拜。膜。て。い。あり。と。成。政。手。勢。と  
 率。隨。え。正。一。門。地。小。退。蒐。り。ら。早。く。も。自。方。先。隊。の。軍  
 兵。遙。小。敵。と。退。蒐。て。山。際。近。く。進。り。ゆ。ゆ。小。ぞ。成。政。自。方。も  
 敵。を。一。騎。近。小。馳。出。し。より。此。時。種。諸。大。胆。ハ。次。骨。小。敵。と  
 勾。引。よ。せ。谷。際。近。く。到。り。ゆ。ゆ。は。は。時。こ。を。互。り。と。一。炮。の。  
 暗。号。と。炮。と。响。り。ま。と。等。しく。左。右。の。除。樹。茂。林。の。陰。より。  
 百。む。り。りの。伏。兵。配。り。上。方。路。と。中。小。捉。綱。これ。お。捉。ん  
 と。接。尾。る。期。と。あ。る。より。佐。く。成。政。ま。や。自。方。の。難。危。小  
 こ。そ。と。韋。駄。天。の。如。く。弛。来。り。敵。中。へ。斬。て。入。り。前。後。左。右  
 と。斬。立。難。立。傑。氣。ま。る。ど。く。猛。戦。志。り。は。は。退。く。跑。尾。佐。く

豊臣記九編卷之七

十九

老黨佐く右左尉の同平左尉の水野六左尉の鈴木彦  
 市同小左尉の市主人小陰頼むおまをまゐるふと四角八  
 面より突入斬込面も觸らむ戦ふふぞその猛奮ふや辟  
 易志りん再び崩れて散れぬ。細徑處して放走を佐く成  
 改いその始自方と制して退物んと来りけりといふと  
 いえども今故答の走ると来て自今の勇戦活きふ因て  
 伏名までも退散せしと意得て祈慢むる氣を生じ此勢  
 威小鹿兎鳴までも退還く自方の答の進むべき及釋  
 して得させんと播小操で弛りまはれ津勢はまきく  
 復損先と争ふて逃んとされど徑細りまはれ先の自方小  
 遶えらる自由ふ走ることと得むあるひの岨小攀路り。

あひひの木根蔓と傳ひ右横左横小遶る相ひ敵  
 小懸危の体ありけりゆえ佐くが徳勇士おもしろき  
 小おもひ遶るまじと退還る此の時津の各一人大奮揚  
 て呼と安へ。こまより先小洞き及あり快く彼所へ走  
 て自方の隊伍と立整し。必死とあつて防がむんへ自方  
 の各士悉く上方勢小撃るべきぞ。今まづりあり急ぐや  
 急げと下知しけり。佐の徳勇士こまを所敵小隊伍  
 と立させとと單騎急小退還り。種崎の三子余人あま  
 り火急小退還らる。洞き及へ出るといえども休を立る  
 小暇なく其後前を走りけり。佐くは得しり賢しと  
 最後尤右もろそりとむ。退還るくゆくとこる小崎津の



三子いつのるふりの忽然として一率半名義ども有え  
 まる先路の路に再び窄きて一騎あつての通りえん成政  
 こまと恥と有て心中怪しむるもあつてむ龍右の  
 山の絶頂より大木大石と墜しく抛落し前後を羨と切  
 塞ひどり佐くが岩士侷大不驕き返返さんとむる所不  
 後の左右の山上より抛炬不火と濼ぎ雨の如く抛落せ  
 けりバ路不積どる焼州不憍然として火燃後り千角万  
 面焔火と成て黒烟り天と覆ひ乃先をあしも有分とむ  
 おまがお上り方勢烟不咽び火不爛を苦むりて木の  
 根不捉若岩角不波揚り遠く遁出んとを大将成政も鞠  
 果今更款の謀計不踏むるあつと悔むといえどもいら

んとも冷術あり。所容くくと煤火不焼殺さ且んもいと  
 朽憾き次才あり。何率遠を出入ものと素来し路と心高  
 辛き目ふして返きりる不。行方くくの山が峯より抛お  
 と屯炬いいくる万とも教志とむ。さ且ども五月の初不  
 して臯月雨のうるむひ不草ども濕がちあり也え。おも  
 ふようふ小燧あがらむ。只黒烟のこま且に成政あんふく  
 廣野あり。焼州の中をのが且いて細乃あり山間不遠く  
 走り来りりら。いつら馬とも騎殺し辛ふとて遁むる  
 ると烟四面不運くもくりて。幕後もあたらか不秀えざ  
 る。バ。海津勢こまを知らむ。ついに成政と遁しり。然ど  
 も義重も伏名ふして焼赤の場をのぐと出ふ。一。個も



成政孤勇  
驕る遂に  
敵の謀  
計に陥了



餘さ。以赤止んと。此谷小の新納彼谷小の伊集院侍役乃  
し。そのところへ。依く成政。教所とのが。まのづるを。ち  
つとも容赦なく。もらさ。赤やと伊集院が。一子余人さ  
ぶ。がら山の。くづる。おとく。岨とおめいて。突ていて。推  
投。奏て。乱殺を成政。ふ。び。務き。あ。ぐ。も。兵。双の。勇士  
あり。な。ま。ち。つとも。屋。せ。む。遮。ゆ。の。款。と。四。角。十。面。小。斬  
て。お。と。一。薙。を。ひ。あ。ひ。ひ。の。跑。散。一。踏。作。一。旋。風。の。お。と  
く。接。着。く。あ。ん。ま。く。一。方。を。歩。破。り。乃。と。も。と。め。て。走。る  
と。こ。ろ。小。念。勃。然。と。新。納。が。一。軍。左。右。より。犯。り。立。の。が。ま  
ま。と。推。投。さ。む。ま。の。成。政。獅子。の。い。り。り。を。殺。し。ち。被  
ら。んと。ま。ると。い。え。ども。對。敵。の。新。納。忠。元。あり。さ。し。も。小

猛。勇。の。成。政。を。ま。ど。も。身。神。ま。つ。と。く。疲。果。太。刀。も。血。熱。小  
純。來。睡。蛇。の。お。と。く。小。曲。り。り。の。ゆ。え。款。各。の。鎧。と。棄。ひ。提  
り。右。小。突。无。小。突。子。卒。万。苦。小。血。戦。を。れ。ども。堅。重。の。圍。と  
出。る。こ。と。あ。さ。を。提。を。で。小。危。く。お。え。と。と。あ。る。へ。加。反  
清。正。福。崎。正。刻。茶。田。利。長。備。生。氏。々。お。の。先。陣。の。弦。將。各。自  
方。と。ま。く。ま。んと。此。と。こ。ろ。ま。で。跑。來。り。一。が。成。政。が。危。急  
と。お。る。より。新。子。の。軍。勢。一。同。小。舍。教。も。あ。さ。で。突。て。入。り。  
清。津。智。と。八。方。へ。近。ち。り。一。方。の。道。を。斬。ひ。き。成。政。と  
ま。く。ひ。い。ご。先。佐。く。智。と。崩。し。や。り。加。反。福。崎。茶。田。備。生  
等。あ。お。も。殘。念。と。ま。く。ま。んと。清。津。智。と。さん。ぐ。小。斬。立  
次。立。進。ま。り。り。が。烟。中。と。遊。色。出。る。效。各。軍。退。く。逃。遁。來

るよりある周守とよそ助りてきよまさ清正まさの後の殿しんぐりしてぞ還陣えんぢん志ろる

後本豊后勅切記九編卷之七了

